

議員の活動実態に関するアンケート結果

1. 調査の目的

議員定数および報酬の見直しを検討する上で、議員活動の実態を把握することを目的としています。具体的には、議員個々の活動時間や活動内容を定量的に分析し、課題を抽出することで、客観的かつ実効性のある議論を進めるための基礎資料とします。

2. 調査概要

対象者：彦根市議会議員（全 24 名）

回答者数：19 名（回答率 79.2%）

調査期間：令和 7 年 1 月 8 日 ～ 令和 7 年 1 月 15 日

回答方法：記名式で提出。提出後、データは匿名化し集計。

利用目的：議員定数および報酬の検討資料としてのみ使用。

3. 調査項目

I. 回答者情報

氏名

所属政党

議員歴

現在の役職

活動地域

主に対応している市民層

主な政策関心分野

II. 議員活動の実態（令和 6 年 1 月から 12 月の期間：会期中・会期外）

週平均の活動時間

市民相談対応の頻度

議会準備（資料作成、調査など）

地域イベントや会合への参加

SNS や広報活動

市民の声を聴く手段と頻度

議員活動において年間で最も多く費やしている費目

政党活動の時間と内容

III. 自由記述

議員定数・報酬に関する意見やその他

4. 調査結果の集計

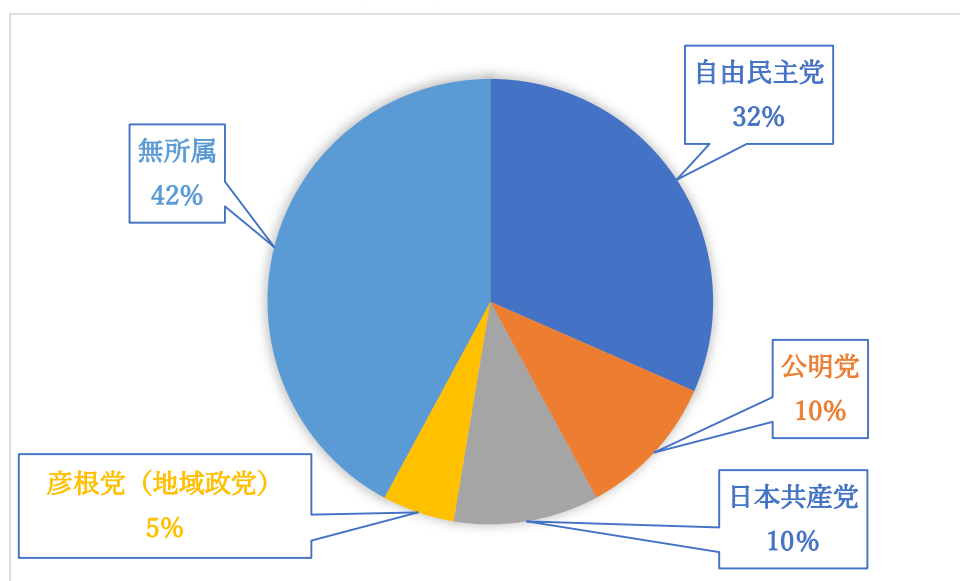
I. 回答者情報

所属政党

回 答	自由民主党	公明党	日本共産党	彦根党(地域政党)	無所属
回答数	6	2	2	1	8

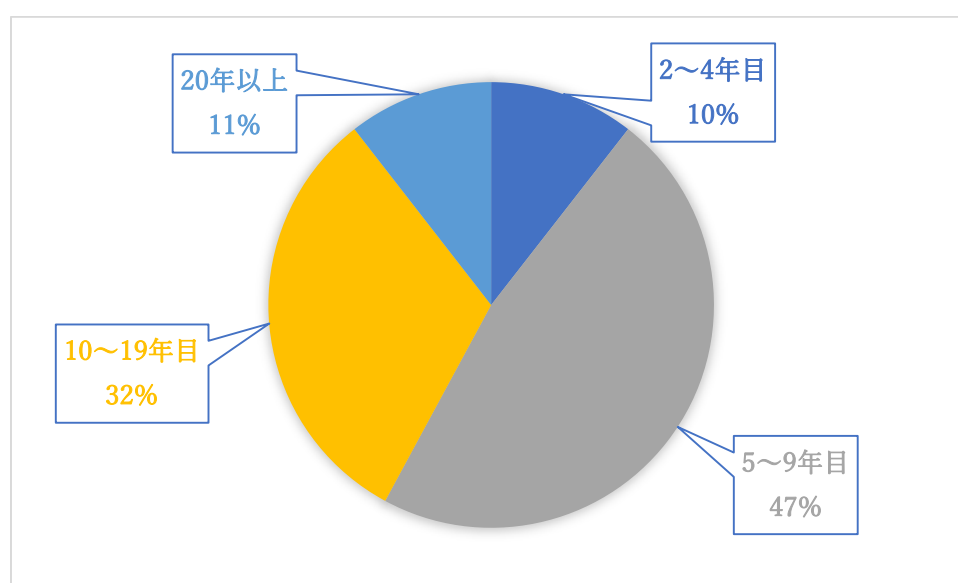
参考:所属政党あり 11名 (58%)

無所属 8名 (42%)



議員歴

回 答	2~4年目	5~9年目	10~19年目	20年以上
回答数	2	9	6	2



現在の役職(複数回答可)

回 答	議長	副議長	常任委員会 委員長	特別委員会 委員長	その他役職	役職なし
回答数	1	1	3	1	5	9

参考:役職あり 10名(53%)

役職なし 9名(47%)

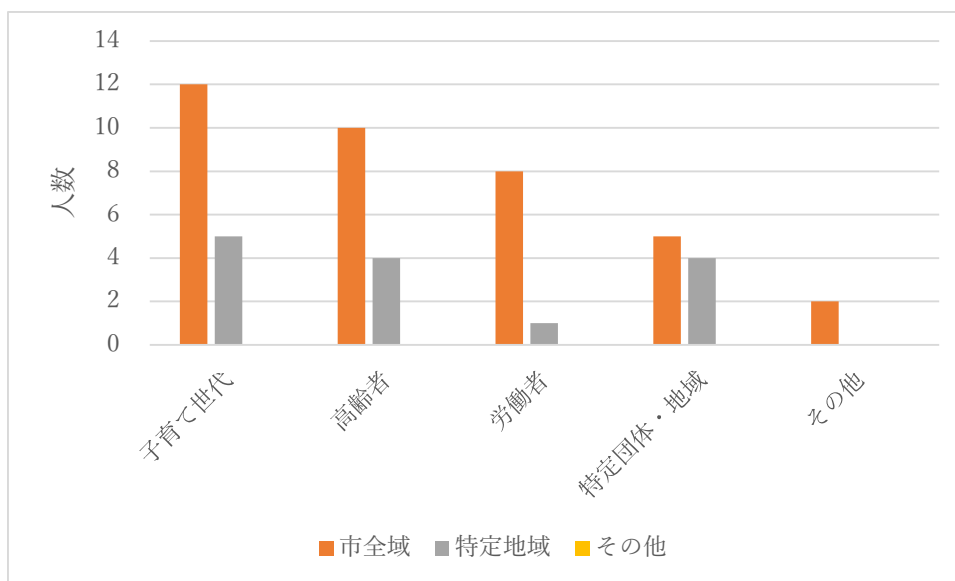
活動地域

回 答	市全域	特定地域	その他
回答数	14	5	0

主に対応している市民層(複数回答可)

回 答	子育て世代	高齢者	労働者	特定団体・地域	その他
回答数	17	14	9	9	2

【活動地域と主に対応している市民層】



主な政策関心分野(複数回答可)

回 答	教育	福祉	経済	都市計画	環境	その他
回答数	16	15	11	12	11	4

Ⅱ. 議員活動の実態(令和6年1月から12月の期間:会期中・会期外)

週平均の活動時間

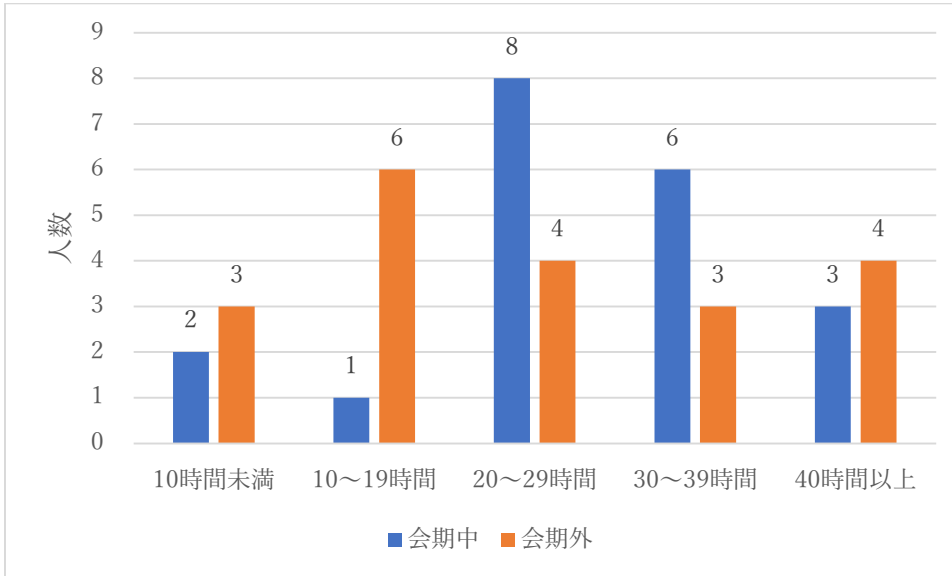
議会会期中

回 答	10時間未満	10~19時間	20~29時間	30~39時間	40時間以上
回答数	2	1	8	5	3

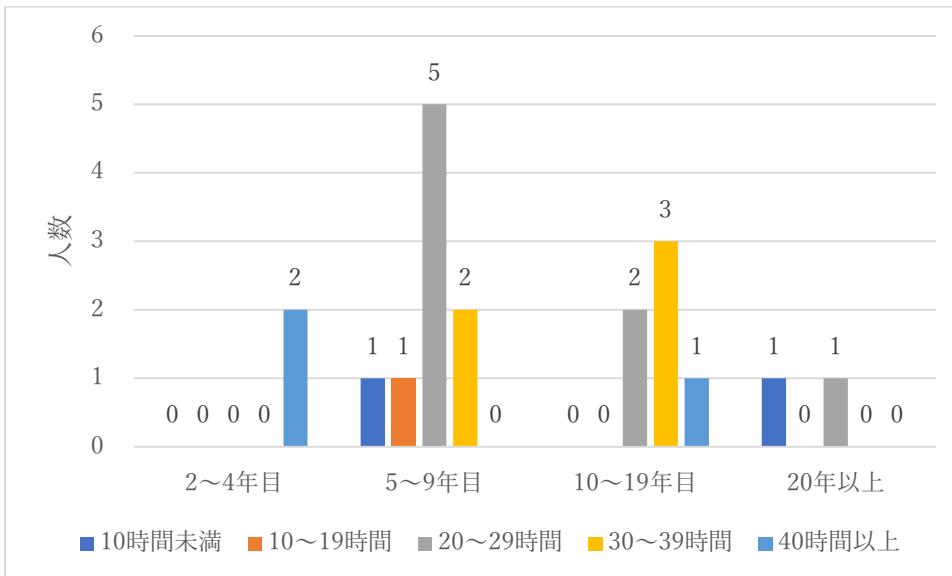
議会会期外

回 答	10時間未満	10~19時間	20~29時間	30~39時間	40時間以上
回答数	3	5	4	3	4

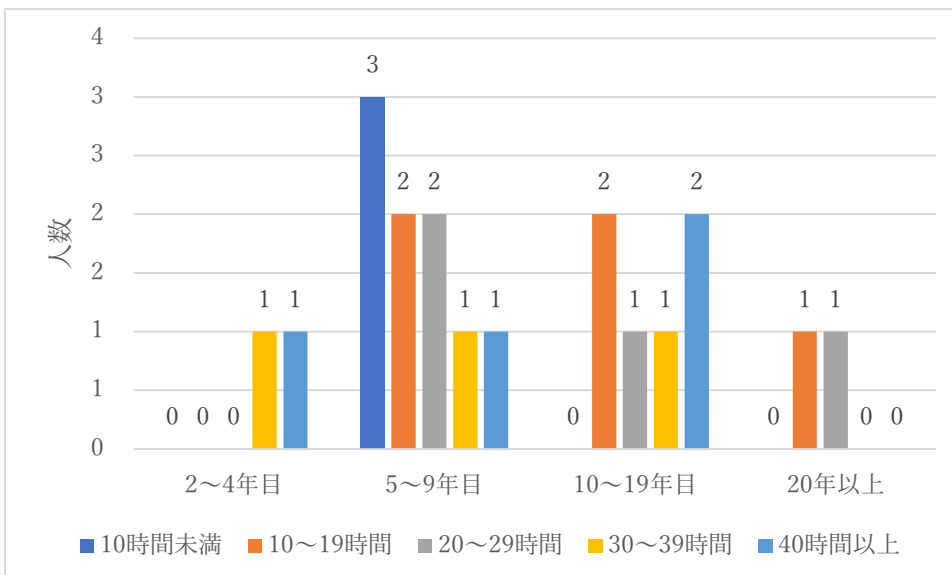
【議会会期中と会期外における週平均の活動時間】



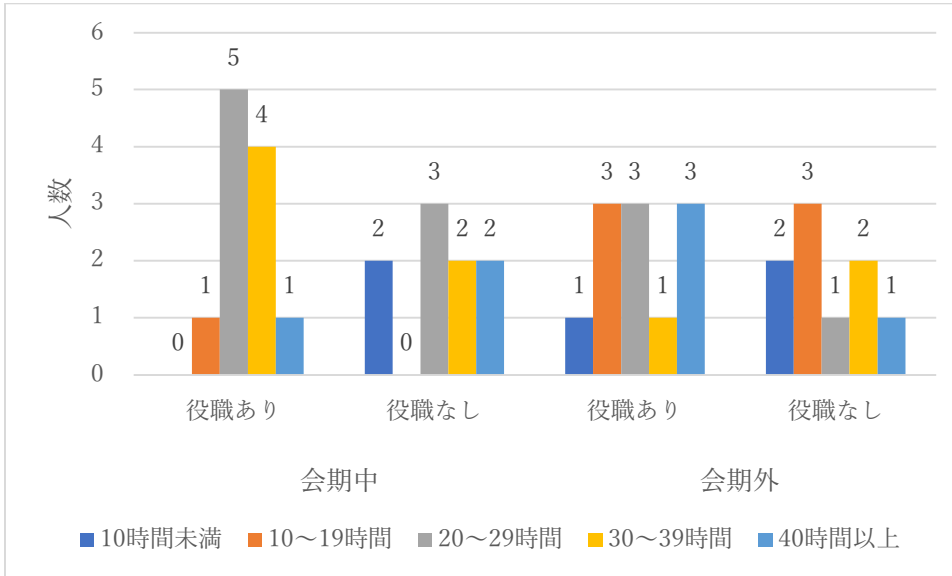
【議員歴と議会活動に費やす1週間あたりの平均時間(会期中)】



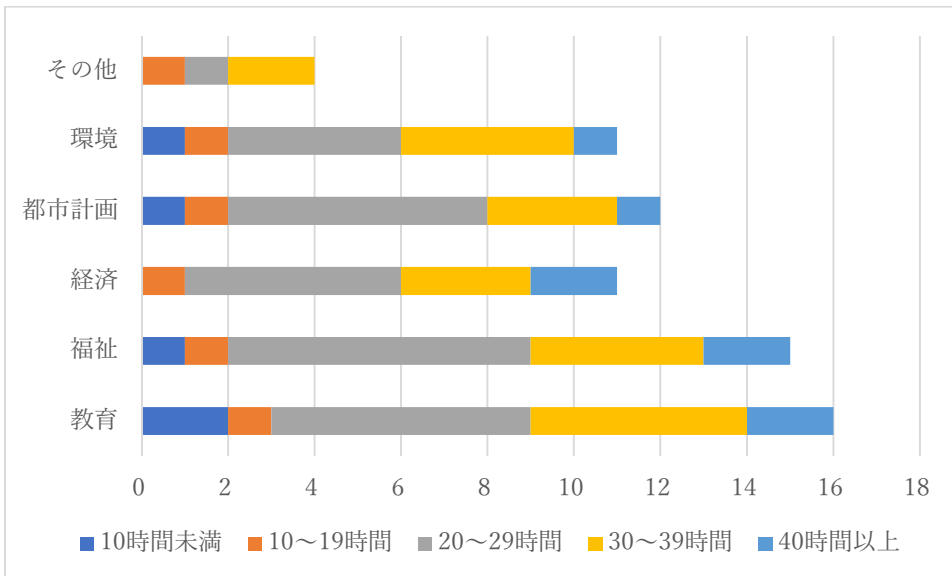
【議員歴と議会活動に費やす1週間あたりの平均時間(会期外)】



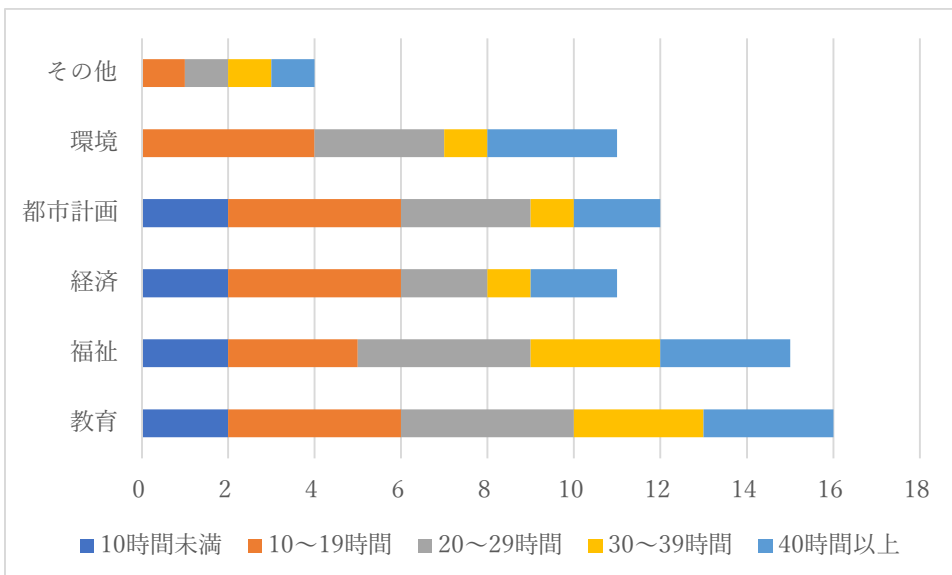
【現在の役職と議会活動に費やす | 週間あたりの平均時間】



【主な政策関心分野と議会活動に費やす | 週間あたりの平均時間(会期中)】



【主な政策関心分野と議会活動に費やす | 週間あたりの平均時間(会期外)】



市民相談対応の頻度

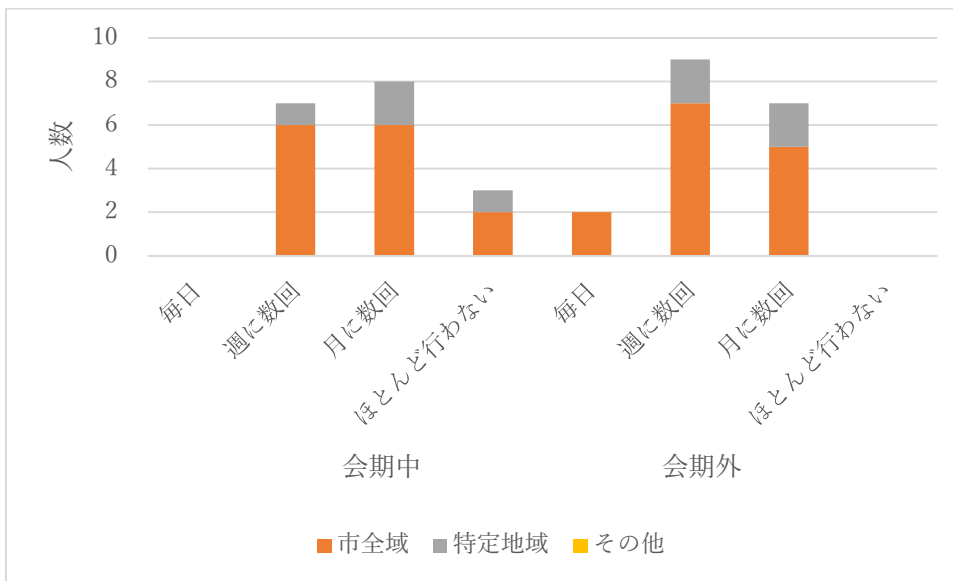
議会会期中

回 答	毎日	週に数回	月に数回	ほとんど行わない
回答数	0	7	8	3

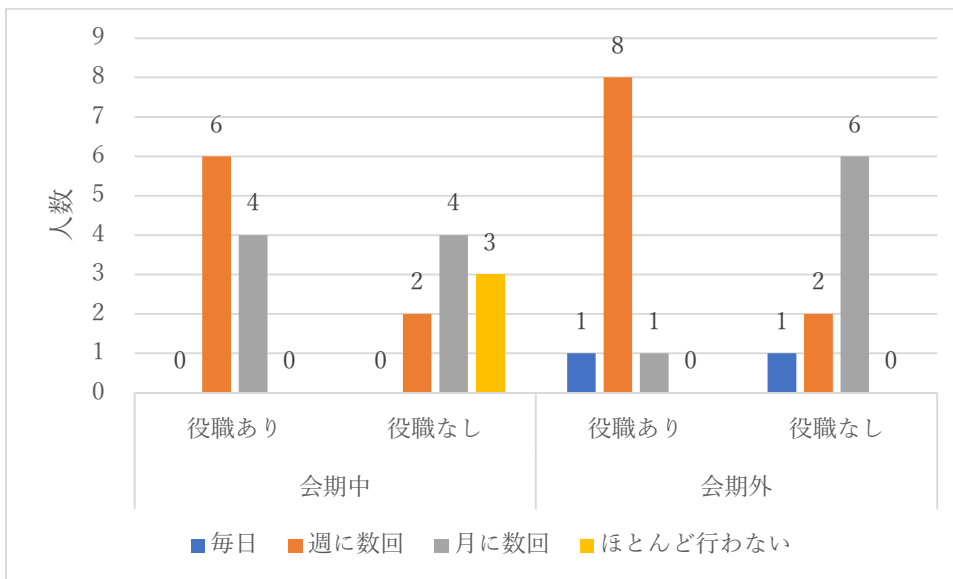
議会会期外

回 答	毎日	週に数回	月に数回	ほとんど行わない
回答数	2	9	7	0

【活動地域と市民相談対応頻度】



【現在の役職と市民相談対応の頻度】



議会準備(資料作成、調査など)

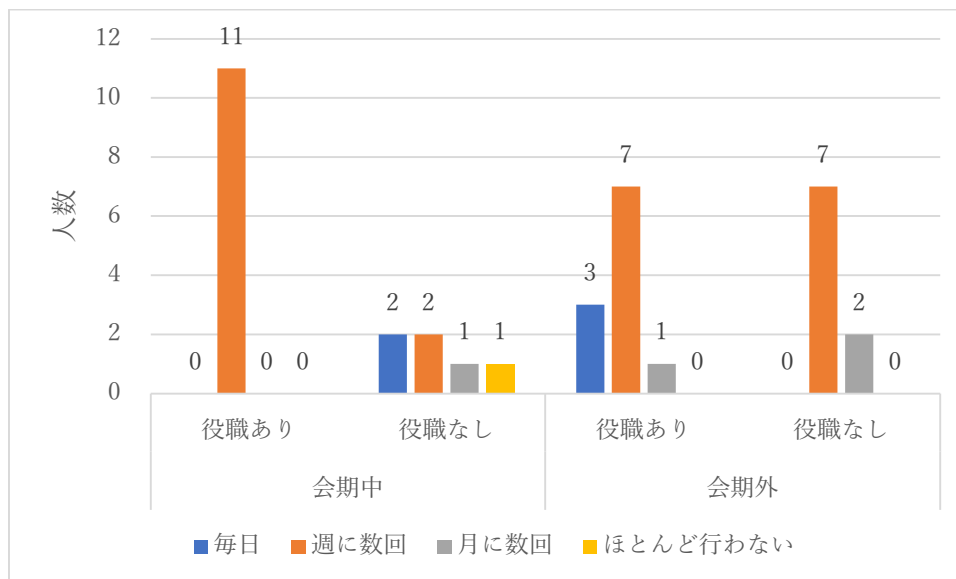
議会会期中

回 答	毎日	週に数回	月に数回	ほとんど行わない
回答数	2	15	1	1

議会会期外

回 答	毎日	週に数回	月に数回	ほとんど行わない
回答数	3	13	3	0

【現在の役職と議会準備(資料作成、調査など)の頻度】



地域イベントや会合への参加

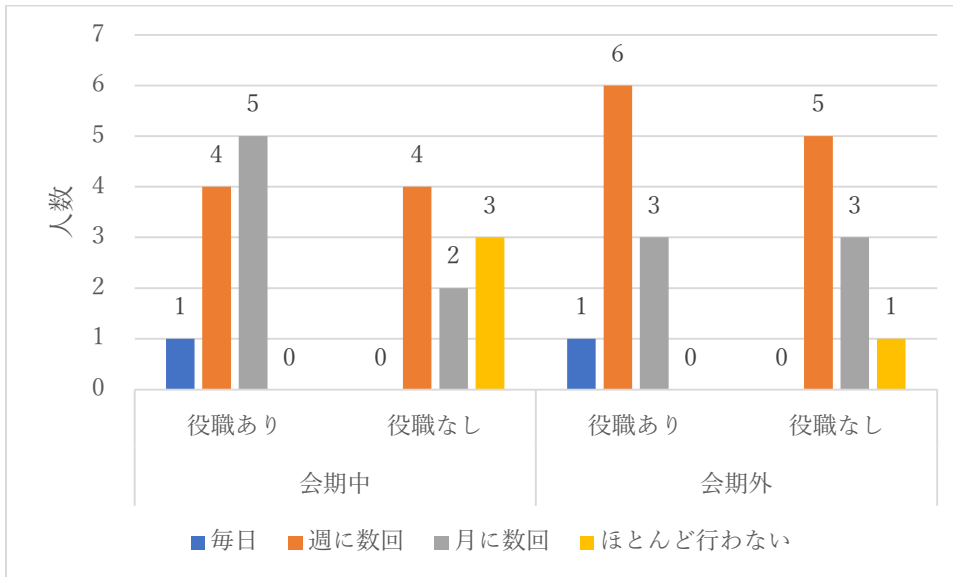
議会会期中

回 答	毎日	週に数回	月に数回	ほとんど行わない
回答数	1	8	6	3

議会会期外

回 答	毎日	週に数回	月に数回	ほとんど行わない
回答数	1	11	5	1

【現在の役職と地域イベントや会合への参加の頻度】



SNS や広報活動

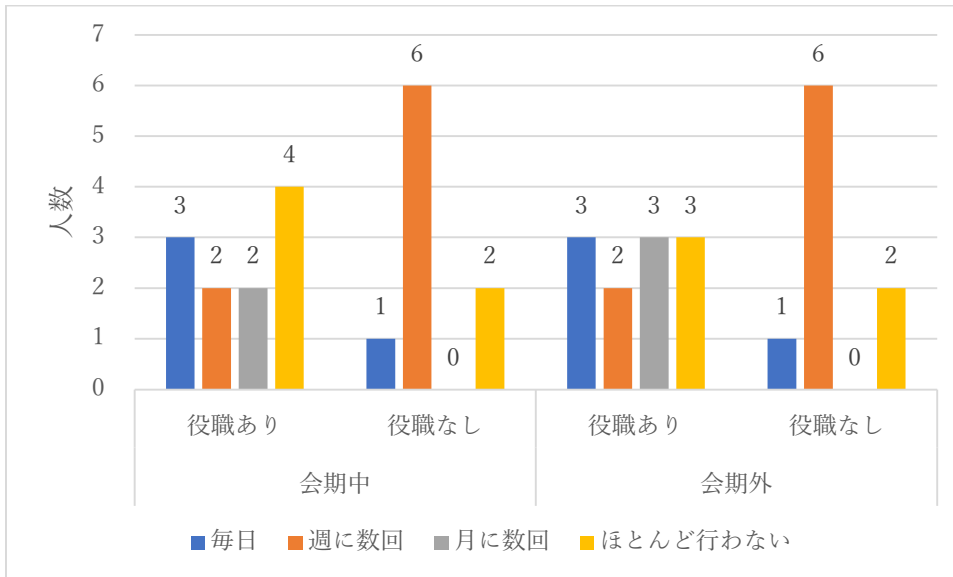
議会会期中

回 答	毎日	週に数回	月に数回	ほとんど行わない
回答数	4	7	2	6

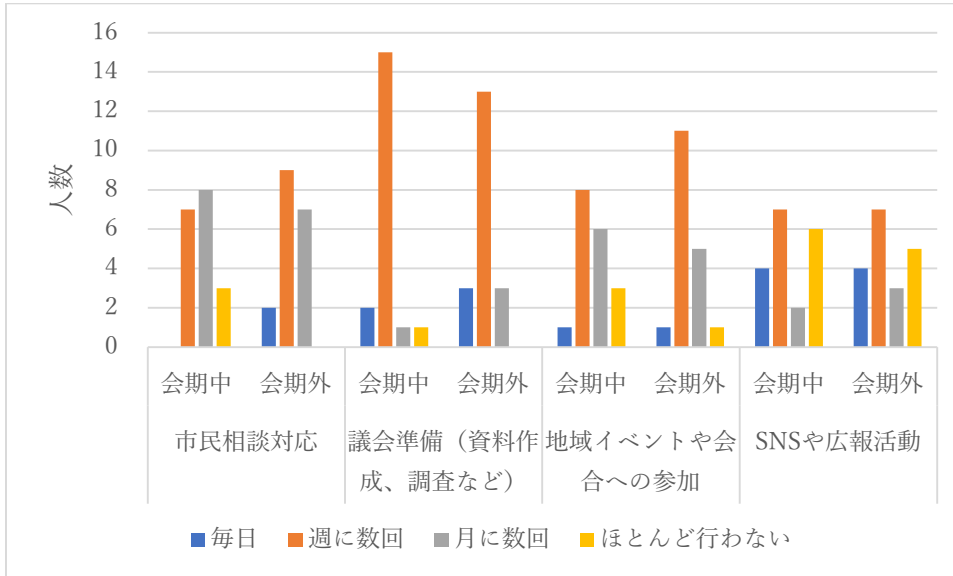
議会会期外

回 答	毎日	週に数回	月に数回	ほとんど行わない
回答数	4	7	3	5

【現在の役職と SNS や広報活動の頻度】



【会期中・会期外における各活動の頻度（全体）】



市民の声を聴く手段と頻度

手段（複数選択可）

回答	直接対話	電話	メール	アンケート	SNS	地域イベントで聴取	その他
回答数	19	17	14	1	5	13	2

頻度

回答	毎日	週に数回	月に数回	ほとんど行わない
回答数	3	11	4	0

	毎日	週に数回	月に数回	ほとんど行わない
直接対話	3	11	4	0
電話	3	9	4	0
メール	3	7	3	0
アンケート	0	0	1	0
SNS	2	3	0	0
地域イベントで聴取	3	8	1	0
その他	1	0	0	0

議員活動において年間で最も多く費やしている費目

回答	交通費	事務費	広報費	イベント参加費	その他
回答数	6	3	7	3	0

政党活動の時間と内容

議会会期中

回 答	10 時間未満	10～19 時間	20～29 時間	30～39 時間	40 時間以上
回答数	14	2	1	1	0

議会会期外

回 答	10 時間未満	10～19 時間	20～29 時間	30～39 時間	40 時間以上
回答数	14	2	0	1	1

政党活動の主な内容

- ・選挙支援等(5)
- ・諸会議への出席(10)
- ・広報活動(6)
- ・その他(勉強会開催、政策打ち合わせ、国等への要望活動、現地立会、啓発活動、市民相談・法律相談、党行事への参加、党員新規募集)

Ⅲ. 自由記述(議員定数・報酬に関する意見その他)

- ・地域の行政課題や住民の声を執行部に届いていかなければいけないので極端に減数せずとも2人程度は削減しても良い。報酬については昨今の経済状況や初任給の額を鑑みれば決して高いとはいえない。安い給料でようやるわ。と言う市民もおられる。報酬審議会の判断に委ねる。(議員歴 10～19 年目)
- ・財政厳しい中ではありますが、社会の流れ、あらゆるジャンルからなり手を確保する為にも議員報酬アップが必要と考えます。その為にも財政確保が必要。(議員歴 5～9 年目)
- ・価値観の多様化が進む中、民主主義の学校たる地方自治においてそれを十分掬い取れる議員の確保は必要であり、全国の 10～20 万人の市の平均議員数 25.0 人等の統計等も踏まえられたい。報酬は、議員は年齢や経験も様々で例えば本県の全労働者の平均賃金等も踏まえ、また本市においては立候補者が議員定数を割り込んでおらず、財政状況が厳しいとの事で市民に大変苦勞を強いている状況等も十分踏まえる必要があると考える。(議員歴 10～19 年目)
- ・人口から、また全国の定数から考えると、今の定数で良いとは思いますが、彦根周辺の市町は削減されています。現在は 24 人定数ですが、財政が厳しい折 20 人つまり 4 人削減されて、1 人分か 1 人半分の年収を分けた議員報酬にされてはと思います。平成 15 年から報酬額が上がっていないと思います。議員活動をするには、ある程度の報酬が必要だと思います。(議員歴 20 年以上)
- ・そもそも議員は市民から選ばれ、市民の代表、代弁者として市民とつながる役目があります。各自治体では生活環境が違うので、人口規模だけで議員定数は決められない。どれだけ住民の声が行政に反映させられているのか、現在の議員間の情報共有が必要。今の段階で定数を触る必要はなく、報酬も市民感情的に逆に減らす方が、議員の役割から見ればあり得る。(議員歴 5～9 年目)
- ・財政状況を考えるとき議員報酬削減が必要。定数削減で財源を配分するのは、施策削減の影響が出ており市民理解は困難。

議員は地域の代表では無く、全体の代表として働くべきとする考えがある一方、市内全域が公

平発展するためにも、地域の声を届ける代表との見方もある。当市中心部と、周辺農山村地域の課題は異なっており、地域からの声を届ける役割が議員に求められている以上、定数削減には慎重であるべき。(議員歴 5~9 年目)

- ・議員定数 多様な意見を反映することが原則で、削減の必要がない。
委員報酬 若い成り手が出てこないことが増額の理由だが、『デンマークが幸せな理由』のなかに、「地方議員は全員ボランティア」とある。労働者の賃金や自由な時間が保証されているからで、社会全体をよくする視点のないまま、議員の数・報酬のこともだけを議論してもダメだと思う。(議員歴 5~9 年目)
- ・議員定数 24 人から 20 人程度に減らす。14 年の議員経験から、24 人が必要だとは思わない。少人数で効率よく議論し、議会運営していくことは可能。・議員報酬 報酬は増額するべきと考える。ただし、市財政を考慮しつつ、定数を減らした差額分からの支出にする。長年、議員報酬は変わっていないが、物価高の影響など時代に即した改正が必要。(議員歴 10~19 年目)
- ・議員定数削減には賛成ですが、議員報酬はまだ上げるべきではない。財政状況の厳しい彦根市は様々な事業が停止、廃止されている中で議員の報酬が上がるのは、市民は納得してられません。個人的には逆に下げるべきという考えもありましたが、他の議員の話聞いてみて定数削減できたならば現状維持でもいいかなという決断に至りました。(議員歴 2~4 年目)
- ・市民から多くの意見を聞くために議員数の削減よりは議員報酬の削減を行うことが先だと考えます。確かに報酬も生活給の一面もありますが、あくまでも報酬であり、現在の報酬額は一般の労働者の給与等と比較しても低くはないと考えます。設問 2-(2)(3)の市民相談対応は特定の日を設けてもまず相談者はなく、地域で開催されるイベント時などにこの際という感じでの相談や困った際に直接電話や訪問を受けることが殆どです。(議員歴 5~9 年目)
- ・議員の活動内容が市民に伝わりきっていないことから定数削減や報酬減額の声が出てくるのであろうかと思う。しっかりと伝えることが大事かと考える。定数を減らすと市民の意見が広く聞けなくなる可能性も。報酬は他市との比較で決して高い方ではないように認識しており、報酬だけの問題ではなく、報酬に見合う仕事をしているか、その仕事の内容を市民に発信しているかではないかと考える。(議員歴 20 年以上)
- ・議員定数は、減らせば良いというものではないと考えます。今の彦根市民にとって、何人が適正かを考えていただきたいです。万が一議員定数を削減する場合は、政務活動費を見直す(増額等)ことをしていただきたいです。(議員歴 5~9 年目)
- ・昨今に見られる議員になりたい方に対しての声が少ないのが残念である。もっと議員のやり甲斐を理解してもらおうと共に議員活動においても安心して活動できる処遇改善も必要に思う。定数については昨今の他市町においても定数減を検討しているところが増えてはいるが定数減をするとしても2から3がいいと考える。そして定数減をするのであれば現状の報酬を上げるべきと考える。(議員歴 10~19 年目)
- ・議員定数に関しては、他市と比較しても特に定数が多いとは思えないので現状で良いと思います。もう一つの理由としては、若い方に議員になっていただきたいとの思いがあります。これを考えると定数削減はまだ支持者の少ない若い方が議員になるハードルを上げるのではないかと懸念をもっています。議員報酬に関しては上げた方が良いと思いますが、彦根市の今の財政状況や市民感情を考慮して判断すべきだと思います。(議員歴 10~19 年目)
- ・議員定数は削減すべき考えである。今の財政状況や今後人口減少を踏まえ 2 名減で 1 期 4

年間で約 5,000 万近く削減でき少しでも教育や福祉等市民の為の予算に運用できる。結局議員側から他の議員の活動が見えない、見えてこない部分を感じている。政務活動費を上げて議員の幅広い自己研鑽と更なる質の向上を目指すべき。彦根は毎回定数オーバーになる位に立候補者がいるのだから報酬は上げる必要ない。(議員歴 10~19 年目)